

## 服飾 ソワ 平成25年度3次隊

### 【どんなところにいるの?】 ～「美しくて不便な町」ソワ～

私が住んでいるのは、ボツワナ北部のSowaTownという人口2500人ほどの小さな町です。首都から公共の交通機関では片道9～12時間かかります。そして、ここソワはBotswanaAsh(Botash)という国営企業の城下町であるため、他の町や村と比べて色々特殊です。まず自然発生的な村ではなく都市計画に基づき作られた町のため、とても街並みが美しく、水道や電気が通っているのはもちろん、なんと電線は完全に地中化されています。道路もきれいに舗装され、街灯もきちんと整備されています。また、国営企業の労働者が町の人口の半数以上いるので、所得が全体的に高めで、ほとんどの世帯で自家用車を保有しており、いわゆる高級車の割合も他の町や村と比べて高いです。エアコンを設置している住宅の率も高いです。私立の学校と公立の学校があり、私立の学校には清潔なスイミングプールがあったり、きれいなバスケットボールコートやテニスコートがあります。公立の学校はそこまでではありませんが、他の町と比べると明らかに違います。色々な点で、いわゆる「途上国」のイメージとはかけ離れた町です。その一方で、町には小さな商店はあるもののスーパーマーケットがありません。そのため私は、片道2.5時間以上かけて毎週買い出しに出ざるを得ません。そして、特徴的なのが水道水の質。水道水はそのまま飲んでも衛生的には問題が無いレベルとされていますが、近くの塩湖の影響を受けて「塩分などのミネラルが多い超硬水」です。地元の人も水道水はまずいので飲まない人が多いです。私は代わりに雨水を煮沸して飲んでいますが、地元の人の中には、雨水は不衛生だといってミネラルウォーターしか飲まない人、わざわざ片道150km以上離れた所にある清潔な湧き水を汲みに行き使っている人もいます。



美しい街並み



水道水を沸騰→冷ますと白い粉が！

### 【ボランティアがしているコト】 ～モノ作りの楽しさ、伝えたい～

私はカウンスルが設置したコミュニティスクールに所属しています。分かりやすくいえば「村役場が公民館で行っている無料の通年手芸教室」の講師として派遣されています。1年目の同僚講師は、洋服を作ることばかりを教えていましたが、2年目の同僚講師は、アート・手芸の内容もかなり重視しています。具体的には、編み物・刺繍・ビーズ細工・各種の染め物・シルクスクリーンなどが予定されています。私は「服飾(ドレスメーカー)」という職種で派遣されていますが、職種名の「服作り」ということにおいては、私が持っている日本の高度な技術や知識はオーバースペックすぎて全く必要とされていません。そもそも日本の専門学校で最初に習うような基本的な事柄さえ、この国では重視されていません。良い悪いということではなく、そもそも服作りの背景や土壌が全く違うのです。ですから、服飾という職種ではありますが、むしろ事実上は「手工芸」に近い内容を指導しています。指導とはいっても、職業訓練校のような明確なカリキュラムや試験がある堅い学校ではなく、言うなれば「カルチャースクール」に近いようなソフトな教室ですので、何かをスパルタで身につけさせるというような指導は行っていません。「モノ作りの楽しさ」「完成した時の喜び」を味わってもらえたらいいなと思って生徒と接しています。



教室の様子(外)



教室の様子(中)

## 【ボランティアの悩み】

## ～文化の違いはあれど、暑いのは一緒～

活動上の悩みとしては、まず、道具の扱いの荒さがあります。例えば生徒達がハサミを頻繁に落とすので、ハサミはすぐにダメになってしまいます。道具の扱いは丁寧にしようと日々指導していますが、小さい頃から身についた習慣はそうそう変わらないようです。また、材料や道具が首都に出ないと手に入らないものが多い、ということも、円滑な活動の妨げになっています。

教室で作った服を販売する時に、ホチキスで服に値札をつける習慣がこちらにはあります。悪いことに、値下げする時などに値札の紙をちぎって除去するけれど、ホチキスの針を外さないで、ホチキスの針だけが服に残っていることが頻繁にあります。なんだか値下げすると、何個も針が残ります。危険だと思いませんか？ 検針器で金属を徹底的にチェックする日本の習慣に慣れている私からすると「ありえない」です。やめさせるべく地道に何度も説得を行っていますが、その場では理解してくれても、翌週になるとホチキスに手が伸びて服にパチン...長年の習慣というのは変えられないですね。

最大の敵は暑さです。毎日、活動で疲れるというよりも暑さで疲れています。地元の人いわく「ソワ・ナタ・グエタの3つのマカディカディパン沿いの町は、ボツワナ中で一番暑い」そうで、私がガイジンだから暑さに弱いというわけではなく、地元の人でさえも熱中症で倒れて亡くなったりするそうです。しかも教室はプレハブ小屋なので、非常に暑く、エアコンは一応あるけど、ほとんど効きません。生徒と一緒に「暑さで頭が痛いね...」とため息をつく毎日です。ちなみに自宅にもエアコンはありません。防犯上、窓もあまり開けられないので、毎日24時間が暑さとの戦いです。